

第1回豊島区リノベーションまちづくり検討委員会 議事録

【日 時】平成27年8月17日（月）17：30～20：00

【場 所】co-ba ROYAL ANNEX

【次 第】

1. 委員長挨拶
2. 初参加者の挨拶
3. 第2回リノベーションスクール@豊島区の準備状況について（中島）
4. リノベーションまちづくり基本構想案について（宮本）
5. 意見交換
6. その他

【参加者】

区分	所属	氏名
委員長	(株)アフタヌーンソサエティ代表	清水 義次
副委員長	副区長	渡邊 浩司
委員	(株)らいおん建築事務所代表 (株)北九州家守舎代表	嶋田 洋平
委員	アサコーホーム(株) 東京都宅地建物取引業協会豊島区支部幹事長	浅原 賢一
委員	ロサラード(株)	伊部 知顕
委員	(株)メゾン青樹代表 (株)都電家守舎代表	青木 純
委員	F1 会議委員	四元 千佐子
委員	政策経営部長	齊藤 忠晴
委員	文化商工部長	栗原 章
委員	建築住宅担当部長	園田 香次
オブザーバー	広報課長	矢作 豊子
オブザーバー	建築審査担当課長	東屋 英俊
オブザーバー	住宅課長	小池 章一
オブザーバー	施設計画課長	佐々木 美津子
オブザーバー	子ども課長	大須賀 裕子
オブザーバー	高齢者福祉課	安達 絵美子
オブザーバー	施設計画課	上住 陽平
オブザーバー	区内在住	吉沢 萌
オブザーバー	区内在住	中島 明
オブザーバー	区内在住	飯石 藍
オブザーバー	区内在住	大越 元
オブザーバー	区内在住	澤田 剛治
事務局	都市整備部建築課マンショングループ	高木 隆之
事務局	都市整備部建築課マンショングループ	斉藤 哲也
事務局	(株)ENdesign 代表	宮本 恭嗣

決定事項

【リノベーションスクールについて】

- ・今回スクール案件は、池袋本町の伊藤邸・共立2マンション、上池袋の池田書店ビル、要町の旧銭湯の4物件とする。
- ・共立2マンションについては、向かいの児童遊園も含めて提案可能となるよう区が担当課・地元と調整する。
- ・リノベーションまちづくりに子どもを巻き込んでいくきっかけとして、今回スクールに池袋本町エリアの子どもの参加を募るよう区から教育委員会に働き掛ける。
- ・今回スクールでは、構想案のエッセンスを抜き出したものを中間発表する。
- ・次回スクールに向けて、同一エリア内の児童遊園を複数束ねて案件化できるよう調整する。

【リノベーションまちづくり構想案について】

- ・「子ども・子育て支援をリノベーション」シートの中に「様々な”子ども・子育て支援のリノベーション施策”」と書き加える
- ・「暮らしづくりの担い手とまちを変える仕組み」シートの「不動産オーナー」を「”民間及び公共の”不動産オーナー」とする。
- ・「ストック活用条例」では分かりづらいので、「遊休不動産ストック活用条例」とする。
- ・「子ども未来宣言」は「子どもたちへの未来宣言」として、子どもも一緒に考えようというメッセージを込めた表現に見直し、ページ位置についても再検討する。
- ・区内に衰退エリアが斑模様にてできていることを記述し、その衰退エリアが課題エリアと位置づける。
- ・来年度、子ども版構想作成および子ども向けリノベーションスクール開催の実施を検討企画する。
- ・構想の普及啓発のための分かりやすい資料（リーフレット等）作成、情報発信等について検討する。
- ・何のために何をやるのかという目標に応じた計測可能で且つ区から提供する上位計画で設けるアウトカム値との整合も図った本構想のアウトカム値の設定について検討する。
- ・子どものための政策は、高齢者福祉につながるということを明記する。
- ・高齢社会への対応について、水村委員の協力を得ながら、区と継続検討する。
- ・本構想の内容は全て実現するために実行することが大前提ということ委員もオブザーバーも認識する。
- ・年内中の構想策定を目指して、11月前半のパブリックコメントに出す最終案の確認をする委員会を10月中に開催することとする。

議事要旨

1.委員長挨拶

清水	(清水委員長より挨拶) ・第2回リノベーションスクール@豊島区の開催も迫っている。今回は会場が旧庁舎ということで非常にユニークなスクールになると思うので、大いに盛り上げていきたい。
----	---

2.初参加者挨拶

	(小池住宅課長より挨拶)
--	--------------

3.第2回リノベーションスクール@豊島区の準備状況について

中島	(中島実行委員長より説明) ・受講生は事業計画コース4ニット計32名の応募に対して、エントリー計63名、一次選考28名、
----	---

	<p>二次選考4名となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より受講料を3.6万円→5万円にUPしたが、同時期に建築学会があること等を考慮すると価格による大きな影響はなかったと考える。 ・ 南は佐賀、北は小樽からの受講生がおり、区在住者は2~3割程度である。 ・ 区担当者の尽力もあり、スクール会場は旧庁舎で公開プレゼンテーション・ライブアクト会場は議場、ユニットワークは委員会室、子連れで公開プレゼンテーションの中継を見られる会場も用意する。クロージングパーティは中池袋公園で開催し、一般の方の参加も受け入れる。 ・ 対象物件は4物件中、池袋本町の2物件（伊藤邸、町会長所有の共立2マンション）が決まっている。 ・ 今週には公開プレゼンテーションの参加者募集も開始する予定。 <p>嶋田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残りの物件候補として、浅原委員から紹介頂いた要町通り沿いの物件（1階生協、2階廃業した銭湯、3~5階共同住宅）の廃業した銭湯のある2階部分を内見してきた。 ・ 共立2マンションについては、向かいの児童遊園も含めた提案で良いか？児童遊園を含めないと案件としてのインパクトが弱い。 <p>園田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童遊園については、土木部と調整中だが、地元との調整も含めて早急に進める。 ・ 要町の谷端川南緑道は、都下水道局の管理であるため、案件化は難しい。 <p>嶋田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残り2物件は、要町の旧銭湯と上池袋の書店ビルとしたい。 ・ 都市公園法の建ぺい率2%の規定は児童遊園は適用外と聞いた。エリア内の児童遊園を10ヶ所程度束ねて案件化しても良いのではないかな？ ・ 例えば、民間が公園内でエリアに波及効果のある事業をやりつつ、維持管理を行う。 ・ 束ねた方が、インパクト・事業性ともに上がる。 <p>清水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共立2マンションは、児童遊園を含められればベストだが、軒先の駐車場敷地も含めた提案でも案件にした方が良く考える。今後、町会長を通じた不動産オーナー発掘が期待できる。 ・ 豊島区の大きな課題は、リノベーションまちづくりを不動産オーナーに染み渡らせることであるため、共立2マンションはそのモデルケースになり得る。 ・ 児童遊園を束ねての案件化は、次回に向けて検討して欲しい。束ねるとロケーションに応じて使いやすいもの使いにくいものを一緒にさばけるので、事業性を考えると束ねたほうが良い。
<p>3.豊島区リノベーションまちづくり基本構想案について</p>	
<p>宮本</p>	<p>(資料：豊島区リノベーションまちづくり構想案を説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度末の委員会後、区および事務局で構成・内容を調整したものである。 ・ 今回スクールで委員会提案として、構想案の一部を示したいと考えている。 <p>【近未来の豊島区のある一日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本構想が実現した際のある一日をイラスト・文章で表現し、構想を区民に分かりやすく伝えたい。イラスト・文章は、区在住の大越元さん・萩原董さんに作成をお願いしており、間に合えば、今回スクール時に公表したい。 <p>【目次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回提示案より、章立てをまとめて、分かりやすくした。 <p>【消滅可能性都市から持続発展都市へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は定住可能都市としていたが、区が使用している文言に統一した方が良く考えた。

- ・当初入っていた消滅可能性都市と住みたい街ランキングを対比させたシートは、消滅可能性都市の発表から1年以上経過して、使い古された言葉にもなってきたので、外すこととした。
 - ・データの裏付けとして、「子育て支援等への財源不足の恐れ」は、財源不足は子育て支援に限ったことではないので、「増え続ける行政需要と限りある財源」とした。
 - ・豊島区子どもプランにあるアンケート結果に基づく「豊島区への愛着の高まり」を付け加えた。
- 【子ども中心の支え合いコミュニティ】**
- ・以前提示していたイメージ図は、子ども達を取り囲む関係者を階層的に表現していたが、各家庭の事情によって、関われる関係者が異なるため、並列に緩やかに取り囲むように変えた。
- 【子ども・子育て支援のあり方】**
- ・子育てという言葉が最近使われなくなること、国の表記に統一を図る意味合いで、「子育て・子育て支援」から「子ども・子育て支援」に変更した。
 - ・豊島区では学童クラブの対象が小3までから小6までに広がっている実態を踏まえて、小4の壁については解消しているものとして削除した。小1の壁については、学童での時間延長の対応はあるものの期間限定であったりするので残している。
- 【子ども・子育て支援をリノベーション】**
- ・左側の四角内について、区子ども課で検討された内容として、区で既に取り組んでいる或いはこれから取り組もうとしているものに差替えた。
 - ・右側の遊休不動産活用等の様々な施策と掛け合わせることで、子ども・子育て支援をリノベーションする。
- 【リノベーションまちづくりによって住み続けられる住環境・地域環境を実現する】**
- ・以前2枚で構成していた内容を重複部分等を整理して1枚にまとめた。
 - ・上段が区の現状の住環境・地域環境、下段でそれに対応した大きく3つの対策を示している。
 - ・ここは、子ども・子育て世帯に限らず、お年寄りも含めて住み続けられる住環境・地域環境としていくことを趣旨としている。
- 【責任ある民間・住民主体で公共空間・公共施設を活用する】**
- ・エリア価値を高めるような公共空間・公共施設の活用例として、廃校活用（アーツ千代田 3331）、道路空間活用（タイムズスクエア）、公園活用（ブライアントパーク）の写真を例示した。
- 【暮らしづくりの担い手とまちを変える仕組み】**
- ・主なステークホルダーとして、豊島区・不動産オーナー・家守チーム・事業オーナーの関係性・役割を示している。
- 【暮らしづくりの担い手が実現する価値】**
- ・それぞれの担い手が、リノベーションまちづくりを通じて実現する或いは得られる価値を示している。
- 【まちを変えるプロセス】**
- ・リノベーションスクールをエンジンとした実現プロセス。
 - ・区内の家守会社としては、都電家守舎以外に、前回スクール案件の事業化を目指して設立されたシーナタウン、目白通り等のストリートをマネジメントするグッドモーニングソサエティが設立されている。
- 【10年かけてまちを変える】**
- ・区ではリノベーションまちづくりを10年計画で取組むため、今年度を1年目とした最初の5年間

	<p>とその後の5年間に大きく分けて考えている。</p> <p>【子ども未来宣言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本構想は区がつくる政策であるが、それを実現する担い手は、区だけではなく、区民・従業者・事業者・団体がそれぞれ主体的に子どもを中心に据えて取り組むことを宣言するものである。 <p>【保井委員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想案について、基本的には大賛成で、ぜひ実践を発展させて欲しいとのこと。 ・「子ども・子育て支援をリノベーション」について、これ以降の部分に上手くつながっていない印象を持つため、既存の子ども・子育て支援策に掛け合わせる様々な施策の「様々な」をもう少し具体的に書いた方が良いのではないかと、例えば「様々な”子ども・子育て支援のリノベーション施策”」と書き加えるなど。 ・「暮らしづくりの担い手とまちを変える仕組み」の中で、区の役割が施策づくりと場の設定のみに限られている印象を受けるので、区が主体的に取り組むべき公共空間・公共施設の活用等、区の役割をもう少し細かく記載した方が良いのではないかとのこと。 ・事務局としては、不動産オーナーの中に区も当然含まれるものと考えているが、現状の表現では民間不動産オーナーのみを指している印象を与えているのかもしれない。 <p>【水村委員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想案について、基本的には賛成で、更に発展させるための意見を頂いている。 ・本構想が子ども中心を謳っていることから、小中学校の授業など子ども達を巻き込んで子ども版構想案を作成してはどうかとのこと。 ・こういったことを通じて、まちへの愛着を醸成することもできると考える。 ・政策の効果・まちの変化を定量的に把握する意味でアウトカム値の設定をしてはどうかとのこと。 ・本構想は子どもを中心に据えてはいるものの、当然、高齢者を含めての構想と考えているが、超高齢化の深刻さを考えると、高齢社会への対応・効果について書き加えても良いのではないかとのこと。 ・この部分については、水村委員の専門でもあるため、協力も可能とのこと。 ・参考資料として、豊島区子どもプラン（概要版）と豊島区子どもの権利に関する条例リーフレット（一般向け）を配布している。 ・豊島区子どもの権利に関する条例リーフレットには、子ども向けもあり、そちらは子ども版構想案の参考になるかもしれない。
<p>4.意見交換</p>	
<p>清水</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出席者からの意見を頂く前に、保井委員・水村委員の意見について議論したい。
<p>清水</p>	<p>【保井委員からの意見に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども・子育て支援をリノベーション」シートの中に「様々な”子ども・子育て支援のリノベーション施策”」と書き加えることについて、全員賛成のため、書き加えることとする。 ・「暮らしづくりの担い手とまちを変える仕組み」シートの中に区の役割をもう少し具体的に書き加えることについて、「不動産オーナー」を「”民間及び公共の”不動産オーナー」とする。 <p>【水村委員からの意見に対して】</p>

嶋田	<ul style="list-style-type: none"> 子ども版構想の作成について、リノベリングで夏休みに子ども向けリノベーションスクールを開催するアイデアがあるので、それを来年度、夏休みの自由研究テーマとして小中学生対象に豊島区でやってみてはどうか。
清水	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達のまちへの愛着の醸成、住み続けたいまちにつながる活動なので、リノベリングから企画書を提出して欲しい。
青木	<ul style="list-style-type: none"> 現状の構想案は、分かりやすくはなったが、それでも資料の作り方が男性的で女性等は読む気にならないと感じる。例えば、子ども・女性向けに10箇条にまとめる等が必要かもしれない。 つくることよりも、どう伝えるかが重要なので、分かりやすい資料を区HPだけではなく、様々なメディアを通じて発信していくことが必要。
清水	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・女性の他に年配の不動産オーナーの理解を得ていくことが欠かせない。北九州市が不動産オーナー向けに作成したリーフレットが好評なので、そういったものも必要かもしれない。 現状の構想案を読んでもらうには、A4縦で読みやすい資料に校正した方が良いと感じる。 それぞれのターゲットに向けた伝える工夫を考えて欲しい。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> リノベーションまちづくりに興味がない人にも興味を持ってもらうためには、絵本のような校正にしても良いのではないか。
四元	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市の不動産オーナー向けリーフレットは非常に分かりやすくて良い。スタイリッシュじゃなくても分かりやすい資料があると良いと思う。
清水	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム値で考えられるものとして、リノベーションスクール・啓発活動等を通じた直接的な成果としては、事業化案件数、その中での区外からの20～30代女性流入数・婚姻数・誕生した子ども数等が考えられる。 北九州では、計測可能な数値をカウントしており、3年程度経過すると相当な実績値が積み上がる。 アウトカム値は、計測されないと意味がないので、何のために何をやるのかという目標に応じた計測可能な具体的な数値を事務局で検討して欲しい。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> 何を目指すかは、公表しないにしても、少なくとも委員の中では共有しておくべきと考える。 昨年、区長に提案した際には、ロイヤルアネックスの実績値として、区外からの20～30代女性流入数・出産した子どもの数を示した。 区内の事業所・従業者数も減っているなので、事業所の開所数、開業者数、生まれた雇用数等も考えられる。
伊部	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム値としては、「消滅可能性都市から持続発展都市へ」シートにある数値をベースにすることがまずは考えられるのではないか。
園田	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに施策評価できる数値を設定したい。
渡邊	<ul style="list-style-type: none"> ミクロで簡単に計測できる数値と例えば出生率のような波及効果によって出てくる数値がある。この2つがどうつながっているかを意識したアウトカム値の設定ができるので、事務局で検討して欲しい。
斉藤	<ul style="list-style-type: none"> 区では、基本計画と合わせて、まちひとしごと創生本部の総合戦略を策定中だが、その中で人口規模等の数値を設けることになっており、出生率についても23区平均を目標にする案が出ている。こちらとの整合を図る必要がある。 リノベーションまちづくりについても、基本計画の中に位置づける必要があり、持続発展都市の戦略の大きな柱の一つとなる。地域活性化の観点から、雇用・賑わい・消費喚起という効果も期待さ

	<p>れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標とする出生率に基づく人口推計を行い、それを実現するための4本柱の施策を位置づけ、施策毎にアウトカム値を設ける予定である。区の方からその情報を提供するの、それと整合するアウトカム値を設定して欲しい。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会への対応に関する表現について、子どもも高齢者も手助けが必要な存在と位置付けて両者は同様に扱うという本質的な考え方を明確に表現してはどうか。 ・ 今回スクール時の中間発表では、高齢者に関する表現は区側の整理も含めて時間が掛かるので、現行のものを骨子とするということの良いのではないか。 ・ 別途、水村委員に直接意見を伺ったほうが良い。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会への対応に関する表現について、水村委員の意見の通り、もう少しそういった表現を匂わせて良いと思う。水村委員にお手伝い頂くべきだと思う。 ・ 既存の高齢者施策をどのように本構想に接続させるかを考えてはどうか。 ・ 水村委員が言っていた子どものための政策をきちんとやっていけば、それは高齢者福祉につながるということを入れてはどうか。 ・ 子どもが暮らしやすいまち、高齢者も暮らしやすいという一言があれば良いのではないか。
園田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の構想案は、子育て編として、別途、高齢者編をつくるのがターゲットを明確にする意味からも良いと考えている。
渡邊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通する部分も多いと思うので、ゼロからつくることにはならないと考えている。 ・ 子どもと高齢者は、大きな柱になると考えられる。それ以外の対象についてはそれぞれに含まれると整理できるのではないか。 ・ 本構想に高齢者も入れ込むとなると、区側整理が9月までには間に合わないの、9月段階では現行の子ども中心のままとし、次の段階で区の高齢者施策との整合も図りながら、整理することになると考える。
宮本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水村委員からは、ターゲットに応じたバージョンをつくることには否定的な意見である。結果的に総花的になり、優先順位も不明確になるため、リノベーションまちづくりは、あくまで子ども中心として、その中に高齢社会への対応も関連付けつつ、高齢者中心の施策は既存のもので対応可能との意見である。
四元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を本構想に入れるとボヤけると思うので、高齢者も子どもを見守るという表現があるので、もう少しそこを強調すれば良いのではないか。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ストック活用条例」では分かりづらいので、「遊休不動産ストック活用条例」とする。
浅原	<ul style="list-style-type: none"> ・ アウトカム値について、豊島区への愛着が高まることが重要と考える。住み続けたい或いは住み続けたくない理由を学校の授業等で確認できると良い。
宮本	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートは小学生と中学生に分けて行っており、いずれも住み続けたい意向が上がっている。住み続けたくないとの答えは15%前後で残りの半数程度は分からないという答えである。
浅原	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないという答えは、自分達の将来を考えると分からないというのが多いのではないか。
大須賀	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートは区在住で居住地をバラけさせた年齢別無作為抽出で合計2,000名程度に対して実施した。
宮本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前意見のあった「リノベーションまちづくりとは」「家守とは」といった用語説明については、構想本編ではなく、資料編に入れることとした。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口や事業所・従業者数の増減が、エリアによって違うのであれば、区内に衰退エリアが斑模様

	できていることを記述した方が良い。その衰退エリアが課題エリアと言える。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所・重御者数の減少は、区としては望ましくない傾向かもしれないが、最初の設定値が悪ければ悪いほどポテンシャルがあると捉えることが可能と発想を転換させた方が良い。 ・ 豊島区への愛着の高まりという表現には違和感を感じる。このシートは区の課題を列挙しているので、逆に愛着の低さとした方が良いのではないか。その中で住み続けたい意向の増加は変化の兆しと捉ええられる。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛着はあるが住み続けられないという表現もあるかもしれない。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども未来宣言は最後ではなく「消滅可能性都市から持続発展都市へ」の次が良いのではないか？
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども未来宣言の位置については、事務局で再度検討して欲しい。
大須賀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども未来宣言の主語は誰なのか？
宮本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1行目に「豊島区に住み働く私たち」と付け加えることで、区だけでなく区民・従業者・事業者等のあらゆる人々（主に大人）を含んでいる。
四元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども未来宣言と聞くと、子どもが主語とイメージしてしまう。
大須賀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊島区子どもの権利に関する条例では、子どもを主体に置いており、大人が何かをやってくれるのではなく、子どもも一緒に考えましょうというのが区の施策の基本である。その点では大人に偏っている印象を受ける。 ・ 一緒に考えましょう。あなた達の意見も聞きますよというメッセージが込められると良い。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちへの未来宣言として、子どもも一緒に考えようというメッセージを込めた表現に見直す。 ・ 子ども達を交えて、子ども達にも考えてもらう取り組みを何らかの形で行っていく。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的にどう取組むか、子ども達の意見をリノベーションまちづくりどう実現していくか、その方法とアイデアをこの場で議論すべきではないか。
大須賀	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区では子ども参画推進事業といって、子どもを交えて区役所の仕事について意見交換するような場を設けている。そういったものを取り入れていく。或いは子ども版の構想をつくる等、子ども参画する機会をつくっていくことが考えられる。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども向けリノベーションスクールでは、自分達のまちのことを知り、自分達が地域とどう関わっていくかを考えてもらう。 ・ スクールの公開プレゼンテーションの場に区内の子ども達を招いて、子どもにも分かるプレゼンをさせるなど本質的なことをやった方が良いのではないか。 ・ NYの公共空間の活用はボランティアによって支えられている部分が大きいと感じた。パブリックマインドを持って責任を持って公共空間を使う意識を子供の頃から醸成する教育が必要と感じている。それをリノベーションスクールを通じて子ども達と一緒に考えられたら良い。
青木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回スクールの対象エリアの小中学校に打診してはどうか。共感をつくるプロセス、アクションの積み重ねが重要。 ・ 「としまおやこさんぽ」という事例もあるので、小中学校のプログラムの一環として提案してはどうか。モデルケースをつくって区内の小中学校に伝播させていく共感プロセスが必要。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回スクールからやってみるのが良いのではないか。
青木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回スクールの関連企画で5日（土）「おやこさんぽ」をやるので、それと組み合わせても良いかもしれない。
斉藤	<ul style="list-style-type: none"> ・ すぐ教育委員会につなぐことは可能である。土日だと任意にはなってしまうが、校長先生の了解

清水	<p>を取るよう動く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレジャーハンティングであれば、子ども達も楽しく参加できるのではないか。具体的なやり方については、実現することを前提に継続検討とする。これは、リノベーションプロジェクトの実現と同様に重要なことである。 ・リノベーションまちづくりは、スピードが重要なので、間に合うようすぐに動いて欲しい。 ・本構想は絵に描いた餅ではなく、書かれたことは全て実現するために実行することが大前提ということを委員もオブザーバーも認識して欲しい。 ・まだ修正可能なので、追加の意見があれば、今週中に事務局まで寄せて欲しい。
5.その他	
嶋田 宮本	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回リノベーションスクール@北九州開催の紹介。 ・本日の議論を踏まえてブラッシュアップした構想案を今月中には、委員の方々にお送りしたい。 ・今回スクールでは、構想案のエッセンスを抜き出したものを中間発表としたい。 ・年内中の構想策定を目指した今後のプロセスとしては、11月前半のパブリックコメントに出す最終案の確認をする委員会を10月中に開催することとする。
嶋田	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、国土交通大学校の都市行政研修のゼミの対象が豊島区となった。今年度は公共施設マネジメントがテーマとなったので、本構想でも取り上げているストック活用条例に活かせる検討をしてもらおう。区内にある具体的な児童遊園・道路・廃校・緑道・図書館を民間が活用ながら維持管理していく仕組み、必要な規制緩和について議論提案してもらおう予定である。